市民のみなさんにとって、より身近な議会を目指して！

しょうばら市議会だより

WEB版　第08号　　鍵掛峠視察編

～産業建設常任委員会～

なぜ、鍵掛峠へ？

人口減少や高齢化が進み、建設業をはじめ多くの産業で「担い手不足」が深刻になっています。道路や橋を守る建設業は、災害時にも地域を支える大切な存在です。

そこで産業建設常任委員会では、庄原市西城町と鳥取県日南町を結ぶ国道183号「鍵掛峠」の道路改良工事現場を視察しました。

テーマは、**ICT（情報通信技術）やDX（デジタル化）で、建設現場の生産性と安全性をどう高めているか**です。

視察先　国道183号 鍵掛峠 道路改良工事現場（庄原市西城町～鳥取県日野郡日南町）
テーマ　建設現場におけるICT・DXの活用



山あいの工事現場へ向かう委員

ドローンの自動化で、毎日の測量・進捗確認作業が…

これまで **毎日 約2時間** ▶ 自動化後 **約8割削減**

しかも、危険な斜面（法面）に人が上がらずに確認できるように。

現場で見えてきたキーワードは
「人が少なくても、安全に、効率よく仕事ができる現場」

この号で紹介する 建設DX 5つのポイント（2・3ページ）

1	2	3	4	5
衛星通信で山の中にネット環境	3次元データ & AR	自動飛行ドローン	重機の遠隔操作	AIで事務も効率化

現場で見た！ 建設DX　5つのポイント

POINT 1

通信も電気もない山の中に、ICTの環境をつくる

現場は電気や通信が十分に届かない山間部。そこで衛星通信「Starlink（スターリンク）」でインターネット環境を整え、太陽光発電・蓄電池や非常用発電機で電源を確保していました。

「通信がないからDXできない」ではなく、「現場で環境をつくってDXを可能にする」

POINT 2

3次元データで「完成形」を見える化

平面図や断面図を読み解くには経験が必要です。この現場では設計を3次元モデルにし、パソコン上で完成形を立体的に確認。施工前に問題点を見つけやすく、ミスや手戻りの防止につながっています。

さらに**AR技術**で、タブレットを現場に向けると設計上の施工位置が実際の風景に重なって表示されます。経験の浅い職員でも位置を確認しやすくなる仕組みです。



国土交通省 中国地方整備局の職員から、現場での取り組みについて説明を受けました

POINT 3

自動飛行ドローンで測量・進捗管理

現場のドローンポートから、ドローンが決められたルートを自動で飛び、撮影データをクラウドへ自動送信。そのデータから3次元データを作り、設計と比べて工事の進み具合を把握しています。

毎日約2時間かかっていた作業が**約8割削減**。危険な斜面の確認も人が上がらずに済みます。カメラやスピーカーも搭載し、遠隔パトロールや熱中症への注意呼びかけにも活用されていました。

POINT 4

離れた場所から重機を動かす「遠隔操作」

重機の遠隔操作による施工の実証も行われていました。猛暑の中や危険な場所での作業を避けられるほか、体力面などで重機オペレーターとして働くことが難しかった人にも、活躍の場が広がると期待されています。

将来は、1人のオペレーターが複数の重機を操作するなど、少人数で施工できる仕組みにつながる可能性もあります。

POINT 5

AI・生成AIで事務作業も効率化

暑さ指数や廃棄物処理状況の確認、書類の作成・修正、法令の確認など、決まった手順の業務をAIなどで効率化していました。

建設DXは「機械のデジタル化」だけでなく、事務も含めた「仕事全体」の効率化

「人を増やす」だけではなく、
「少ない人材で地域を支える仕組み」をつくる

今回の視察を通じて、ICT・DXは単なる「最新技術の導入」ではなく、人口減少や担い手不足という地域の課題に向き合うための手段であることを実感しました。

特に印象的だったのは、作業時間の削減だけでなく、危険な作業を減らし、経験の浅い人でも仕事がしやすくなるなど、「人が少なくても、安全に、効率よく仕事ができる現場」への転換が進められていたことです。

人口減少や担い手不足は、庄原市にとっても身近な課題です。委員会では、今回の視察で学んだことを生かし、引き続き調査・研究を進めていきます。

産業建設常任委員会

委員長　：吉川 遂也
副委員長　：宇山 茂之
委員　：福山 権二・徳永 泰臣・
堀内 富夫・木山 義仁

ぜひ皆さんからのお声もお届けください。
いつでもお待ちしています。

発行／2026年10月14日　発行者／庄原市議会（編集：議会広報委員会）
〒727-8501 庄原市中本町一丁目10番1号　0824-73-1162